

# 2017年3月期 決算説明会

2017年5月23日



PUNCH INDUSTRY

パンチ工業株式会社

(証券コード:6165 東証第一部)

---

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

## 本日の内容

---

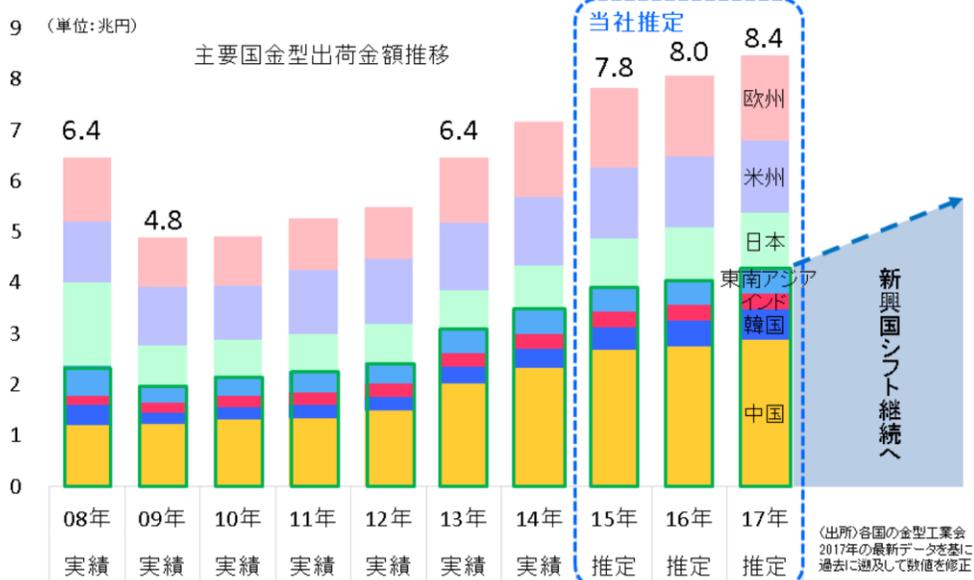
1. 経営環境
2. 2017年3月期 決算概況
3. 2018年3月期 業績予想
4. 中期経営計画  
「バリュークリエーション2020」の進捗



□経営環境です。

## 金型市場の予想(金額)

リーマンショック直後をボトムに着実に回復。右肩上がりの金型市場。



□世界の金型市場の動向です。

2017年に最新データが更新されましたので、過去に遡及して数値を修正しています。

□直近のトレンドに変化はなく、中国を中心とした新興国が牽引車となり、今後も成長基調が見込まれています。

□金型部品の市場規模としては、金型市場規模の約7%レベルと考えており、現在進行中の2017年度は、金型市場が約8.4兆円、金型部品市場は、その7%である約5,800億円超の規模と見えています。

## 日本市場



企業収益は改善しており、個人消費や設備投資等は持ち直しの動き。景気は、一部に改善の遅れもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。

### 顧客業界動向

#### 自動車

拡大する海外需要に関しては現地調達が進んでいるものの、各メーカーの新車プロジェクトに動きがあり、回復基調。

#### 電子部品

スマートフォンの普及が一巡、需要を牽引する製品が不在の状況ではあるが、引き続き高機能化・多機能化への強いニーズ。

#### その他

自動車向けや産業向けをメインとした半導体ニーズが拡大中。2017年も引き続き、受注活発の見通し。

### 当社課題

回復基調に転じた自動車関連の受注強化、食品・飲料関連等の新分野への積極的な取組み。

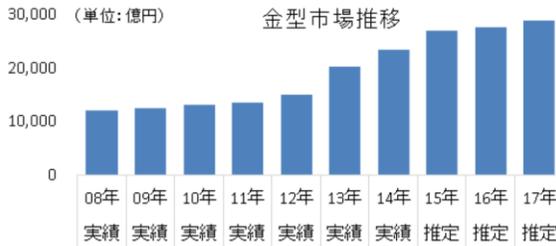
□日本市場です。

□自動車関連において2016年前半は熊本地震の影響等による生産鈍化もありましたが、後半に受注が回復基調に転じています。

□自動車関連の動きに付随して昨年は年間を通して、好調であった半導体において、車載向けセンサー関連の半導体にも動きがでており、2017年はこの状況が続くとみえています。

□当社の動きとしては、回復基調に転じた自動車関連の受注強化を図り、食品・飲料関連等の新分野への積極的な取組みを推進していく計画です。

## 中国市場



2017年1-3月期のGDP成長率は、前年同期比6.9%増となった。個人消費は堅調に増加しており、生産は伸びがこのところやや上昇している。景気は持ち直しの動きがみられる。

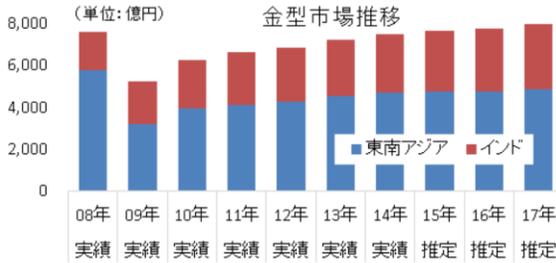
顧客業界動向	自動車	小型車減税縮小の影響はあるものの、政府の自動車普及に関する政策などがあり、穏やかな市場成長を予測。
	電子部品	現地メーカーのスマートフォン販売台数は増加中。販売価格はほぼ変わらず、成長傾向。
	その他	穏やかな伸びではあるものの自動車向けをメインとした半導体ニーズが拡大中。
当社課題	戦略製品や医療関連等の高付加価値製品への取組みと大連工場拡張による特注品生産の強化と生産能力の拡大という質・量の両面から対応。	

□中国市場です。

□個人消費は堅調に増加しており、巨大な市場であることには変わらないと考えています。特に自動車市場においては、小型車減税縮小の影響はあるものの、政府の自動車普及に関する政策などがあり、穏やかな市場成長を予測しています。

□当社の動きとしては、戦略製品や医療関連等の高付加価値製品への取組みと大連工場拡張による特注品生産の強化と生産能力の拡大という質・量の両面から対応していく計画です。

## 東南アジア・インド市場



【東南アジア】台湾、タイ、インドネシアにおいて景気は持ち直しの動きがみられる。

【インド】2016年10－12月期のGDP成長率は、前年同期比7.0%増。景気は内需を中心に緩やかに回復。

### 顧客業界動向

#### 自動車

依然として市場は拡大傾向。自動車普及途上にある国が多く、経済成長とともに需要も成長中。

#### 電子部品

スマートフォンの普及が進み、今後は中国以上の成長が見込まれ、世界市場を牽引と予測。

#### その他

各国の自動車市場の成長、及びスマートフォン市場の成長と比例して、全体量は多くはないが半導体市場が成長する兆しあり。

### 当社課題

ベトナム工場の生産体制強化に伴うグループ生産体制の最適化を行い、欧米向け輸出事業拡大と成長市場でのポジションの確立。

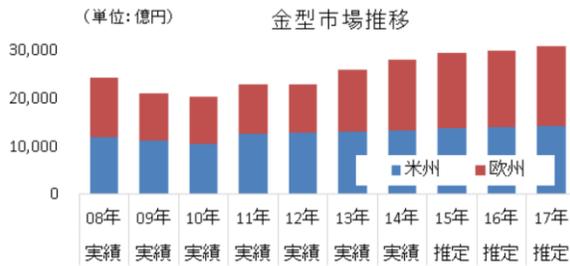
□東南アジア・インド市場です。

□東南アジアにつきましては、各国の経済成長にバラつきが見られるものの、景気は持ち直しの動きがみられる国が増加しています。

□インドにつきましては、足下、悪化していた自動車・二輪車販売や景況感は持ち直しに転じており、新紙幣不足の解消が見込まれる新年度以降、景気は徐々に底堅さを増していくとみています。

□当社の動きとしては、ベトナム工場の生産体制強化に伴うグループ生産体制の最適化を行い、欧米向け輸出事業拡大と成長市場でのポジションの確立を狙う計画です。

## 欧米市場



【欧州】ユーロ圏では、景気は緩やかに回復、2016年10－12月期のGDP成長率は、前期比年率1.9%増。  
 【米州】アメリカでの2016年10－12月期のGDP成長率は、前期比年率2.1%増。

顧客業界動向	自動車	欧州は、ハイブリッド車の販売が好調を維持。 米州は、市場環境に大きな変動はないものの、高採算なライトトラック比率の上昇や労働市場の改善といった好材料もあり。
	電子部品	欧州は、パソコンや薄型テレビ等の需要が成長と予測。 米州では、白物家電が堅調に推移すると予測。
	その他	欧米ともに、2017年の半導体業界は、メモリ分野、車載用製品などが成長を大きく牽引すると予測。
当社課題	米国における特注品市場を主体とした営業活動を強化。最適な生産拠点への振分けを行うグローバルソーシングを活用した欧州販路の更なる拡大。	

□欧米市場です。

□欧州につきましては、企業部門の一部に改善の遅れもみられるが、景気は緩やかに回復しております。また、個人消費は増加していることから、生産にも持ち直しの動きがみられる状況となっています。

□米州につきましては、足下のアメリカの状況を見ますと、個人消費は増加しており、設備投資が持ち直していることもあり、生産にも好影響が出てきています。

□当社の動きとしては、2017年4月に営業を開始した米国販売会社にて、米国における特注品市場を主体とした営業活動を強化すること、また、最適な生産拠点への振分けを行うグローバルソーシングを活用した欧州販路の更なる拡大を狙う計画です。

## 2. 2017年3月期 決算概況

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

□2017年3月期の決算概況です。

## 2017年3月期 決算ハイライト

中期経営計画「バリュークリエーション2020」の初年度は、増益を確保。  
海外は現地通貨ベースで好調を維持。

売上	連結	連結売上高は、前年比99.7%、1億円減の366億円。
	日本	前年比101.7%の159億円。家電関連が引き続き軟調だが、半導体関連が年間を通して好調を維持、自動車関連の受注が回復基調。
	中国	前年比97.9%の174億円。自動車関連が牽引役、加えて高付加価値の戦略製品も伸長し、現地通貨ベースは好調を維持したが、為替変動の影響大。
	その他	前年比100.2%の33億円。 欧州、ベトナム、インドが好調に推移。
利益		営業利益は、前年比100.2%の19.9億円。売上減少による影響等があったものの、原価率が海外を中心に前年よりも良化したこともあり、増益を確保。経常利益は、為替リスクヘッジ策が奏功し、前年比112.5%の18.7億円。親会社株主に帰属する当期純利益は、前年比110.1%の13.7億円。バリュークリエーション2020の初年度の経営目標をほぼ達成。
ネット資金		ベトナム工場関連の投資等により、期首から14億円減少。

□2017年3月期の決算ハイライトです。

□グループ全体で売上は為替の影響もあり減収でしたが、利益は増益を確保することができました。

□日本では、引き続き半導体関連が好調に推移し、第1四半期に落ち込んだ自動車関連も、第4四半期には受注が回復基調に転じ、増収となりました。

□中国では、自動車関連が牽引役となったことに加え、高付加価値の戦略製品が伸長し、現地通貨ベースで好調を維持しましたが、為替変動の影響が大きく、邦貨ベースでは減収となりました。  
その他の地域では、欧州、ベトナム、インド等が好調に推移しました。

□営業利益は、前年比100.2%の19.9億円となり、売上減少による影響等があったものの、原価率が海外を中心に前年よりも良化、増益を確保しました。

□経常利益は、前年比112.5%の18.7億円、親会社株主に帰属する当期純利益は、前年比110.1%の13.7億円となりました。経常利益以下の改善は、当年度よりスタートした為替リスクヘッジ策により、前年度に発生した為替差損を大幅に圧縮することが出来たことによるものです。

□ネット資金は、ベトナム工場関連の投資等により、期首から14億円減少しました。

## 損益計算書サマリー

2016年11月時点、海外事業における為替変動による影響や、国内事業における景気の停滞が見込まれるため、通期の業績予想を修正。その後、為替レートの好転や海外事業が好調に推移したこともあり、結果として上場来最高益を更新。

(単位:百万円)

	2016年3月期 (実績)		2017年3月期			
			修正予想 (2016/11/10公表)	実績	前年差 (前年比)	修正予想差 (修正予想比)
売上高	36,755		35,700	36,648	▲106 (99.7%)	948 (102.7%)
営業利益	5.4%	1,986	5.0% 1,800	5.4% 1,990	4 (100.2%)	190 (110.6%)
経常利益	4.5%	1,666	4.8% 1,700	5.1% 1,874	207 (112.5%)	174 (110.3%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	3.4%	1,249	3.5% 1,250	3.8% 1,375	126 (110.1%)	125 (110.1%)

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

10

□決算数値の概要です。

売上高は366億円で、前年比99.7%、1億円の減収となっています。

営業利益は1,990百万円、

経常利益は1,874百万円、

親会社株主に帰属する当期純利益は1,375百万円となっており、

利益面は、いずれも前年を上回っています。

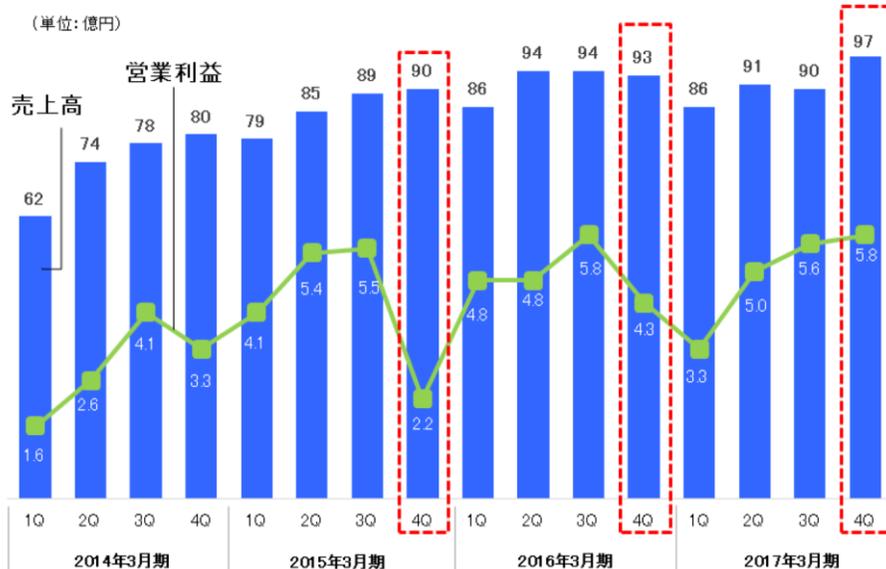
□2017年3月期を四半期別に振り返ると、第1四半期は熊本地震の影響等もあり、想定ラインを下回ったスタートとなり、第2四半期累計では、海外事業における為替変動による影響や、国内事業における景気の停滞が見込まれたため、2016年11月に通期の業績予想を修正しました。

□その後、為替レートの好転や海外事業が好調に推移したこともあり、結果として上場来最高益を更新しています。

□今期からスタートした中期経営計画「バリュークリエーション2020」初年度の経営数値としては、売上370億円、営業利益20億円、親会社株主に帰属する当期純利益14億円を目標として掲げて取組んでおり、初年度は、経営目標をほぼ達成しました。

## 売上高と営業利益の推移

四半期ベースでの売上高は上場来最高、営業利益は最高水準



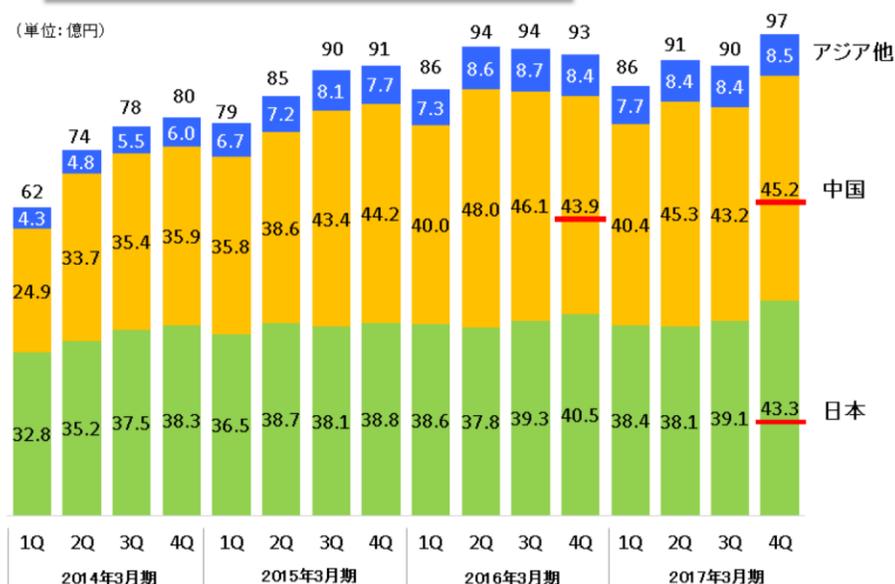
□ 四半期ベースの売上高と営業利益の推移です。

□ 第4四半期において、グループ全体の取組みで、第1四半期での遅れを第2四半期以降で取り返すことができ、売上高は上場来最高を更新し、営業利益は上場来最高水準となっております。

## 地域別売上高

四半期ベースで、日本が上場来最高を更新

(単位: 億円)



PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

12

□地域別の売上高です。

□日本は、自動車関連において受注が回復し、四半期ベースで、上場来最高を更新しています。

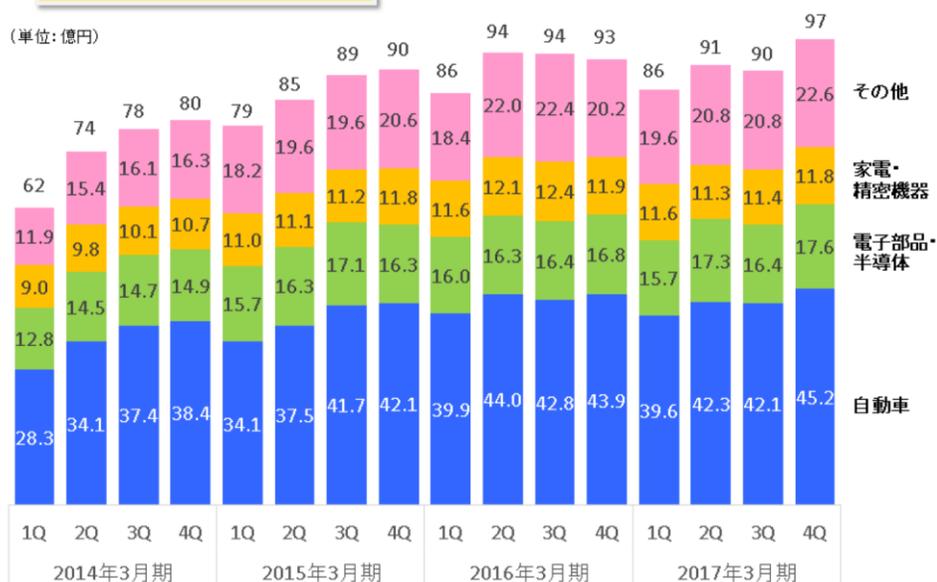
□中国は、引き続き自動車関連での力強い受注があり、第4四半期では増収となりましたが、連結累計期間において前年同期と比べますと、現地通貨ベースでは伸長しているものの、円高人民元安の影響により、邦貨ベースで減収となっています。

□アジア他は、欧州、ベトナム、インドが好調に推移していますが、円高の影響により、邦貨ベースでは前年同期比で横ばいの数値となっています。

## 業種別売上高

自動車関連の受注が拡大

(単位: 億円)



□業種別売上高です。

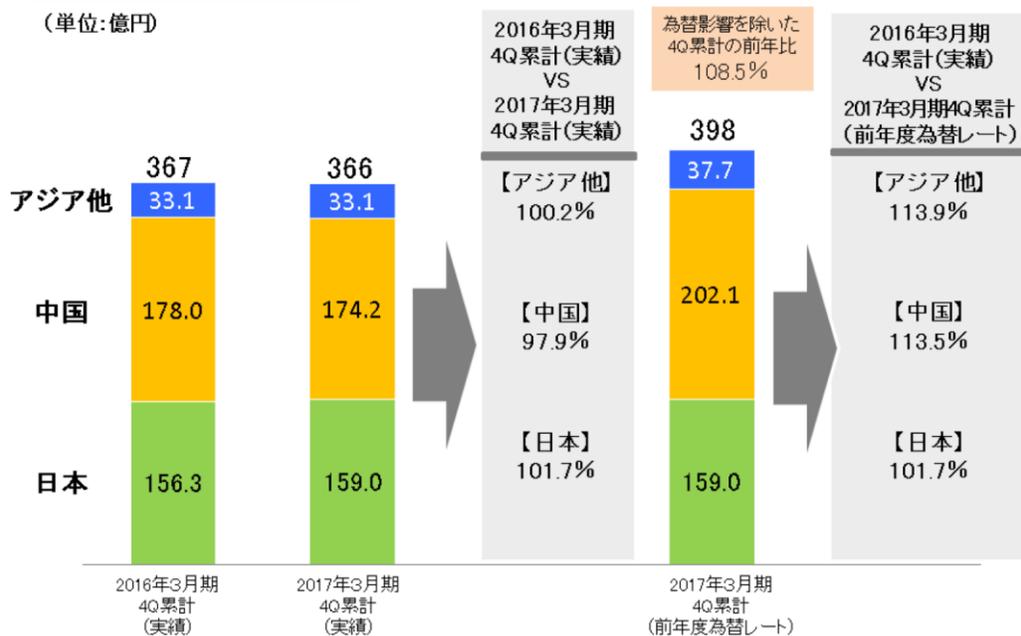
□第4四半期より日本において、自動車関連の受注が回復しており、そのことが自動車関連の売上を底上げしました。

□半導体関連の好調もあり、電子部品・半導体関連が伸長しています。

□その中でも、高付加価値製品として当社が注力している食品、飲料関連等は堅調でした。

## 地域別売上高 ～前年度為替レートベース換算～

(単位:億円)



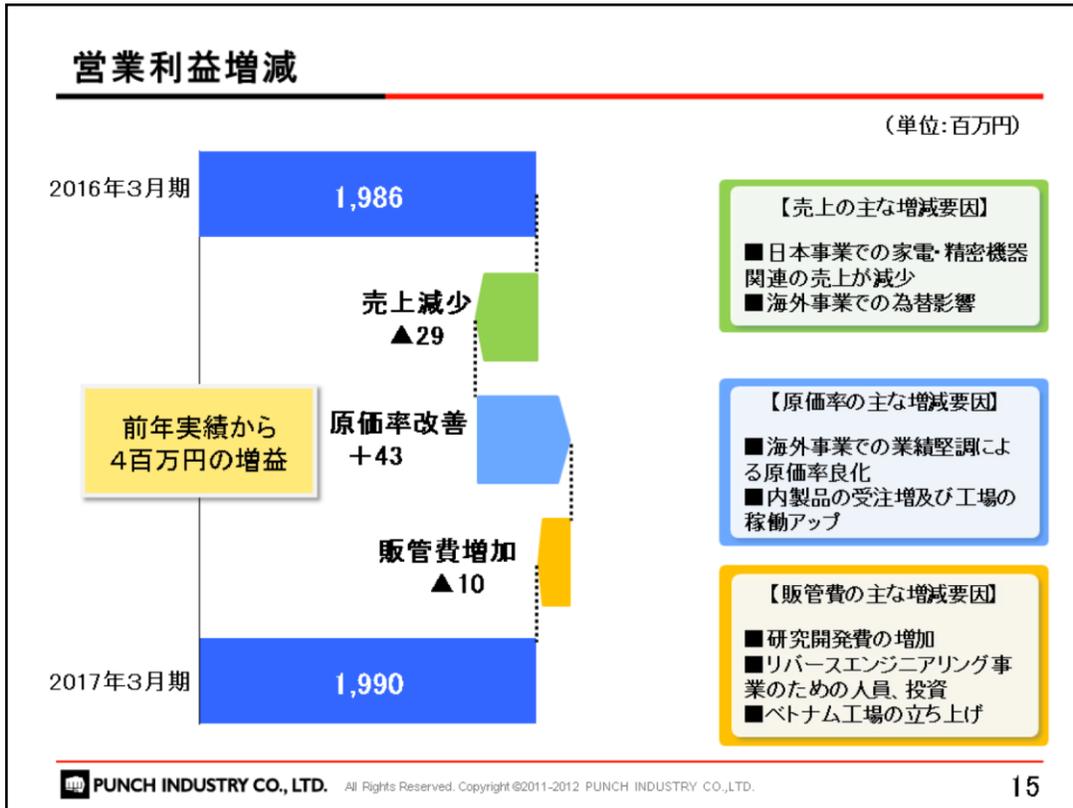
**PUNCH INDUSTRY CO., LTD.** All Rights Reserved. Copyright ©2011-2012 PUNCH INDUSTRY CO.,LTD.

14

□2017年3月期の地域別売上高を前年度為替レートベースに置き換えたグラフです。

□中国やアジアその他の地域では、現地通貨ベースの売上は伸びていますが、円高の影響で、邦貨ベースでは減収となっています。

□為替影響を除くと、中国は113%、アジア他は113%の伸びとなり、全体の売上高は、あと32億円ほど増加し398億円、前年比は108%になります。



□ 営業利益の増減分析です。

□ 前年実績の19.8億円から、

売上減少や円高の影響により、29百万円の利益減となりましたが、海外グループの原価率良化により、43百万円の利益増となりました。

一方、リバースエンジニアリング事業のための人員、投資に伴う販管費増や、ベトナム工場の立ち上げにより、10百万円の利益減となりました。

□ 当期実績としては、19.9億円となり、前年同期に対し、4百万円増加しました。

## 貸借対照表サマリー

(単位:百万円)

	2016年3月期末	2017年3月期末	比較増減
総資産	27,337	29,451	2,114
総負債	13,338	15,275	1,937
うち有利子負債	5,429	6,857	1,427
純資産	13,999	14,176	176
ネット資金	▲2,108	▲3,526	▲1,417
自己資本比率	51.2%	48.1%	▲3.1pt
自己資本利益率(ROE)	8.9%	9.8%	0.9pt
設備投資額(無形固定資産含む)	1,292	2,909	1,617
減価償却費(無形固定資産含む)	1,432	1,396	▲36

□財務状況です。

□総資産は、売上債権の増加及び有形固定資産の増加により、294億円となりました。

□総負債は、借入金の増加により、152億円となりました。

□純資産は、親会社株主に帰属する当期純利益の計上に伴う利益剰余金の増加により、141億円となりました。

□自己資本比率は、為替換算調整勘定の減少や借入金の増加等により、48.1%となり、ROEは前年より0.9ポイント増の9.8%となりました。

□ベトナム工場関連の投資に加え、日本のリバースエンジニアリング事業や中国の特注品強化のため、積極的な設備投資を進めており、設備投資額は、前年から16億円増加し、約29億円となりました。

## キャッシュ・フローサマリー

(単位:百万円)

	2016年3月期	2017年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,187	1,785
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲1,159	▲2,770
フリーキャッシュ・フロー	2,028	▲985
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲1,901	1,199
現金及び現金同等物の増減額(換算差額含む)	▲66	33
現金及び現金同等物の期末残高	3,235	3,269

□キャッシュフローの状況です。

□ベトナム工場に関する有形固定資産の取得による支出の計上等によりフリーキャッシュ・フローは9億円のマイナスとなりました。

### 3. 2018年3月期 業績予想

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

□2018年3月期の業績予想です。

## 2018年3月期 業績予想概況

バリュークリエイション2020の2年目であり、高収益事業推進のためのバトンゾーン最終年。重点経営施策の一部である、ベトナム工場の本稼働(2016年10月)、米国販売拠点の設立(同年12月)と営業開始(2017年4月)等、計画通りに進捗中。

売上	連結	ベトナム工場での完成品製造に向けた第2フェーズ計画、米国販売拠点の販売体制確立等、体質強化や構造改革を推進し、前年比103.7%の380億円を見込む。
	日本	前連結会計年度の第4四半期より、活発な動きを見せ始めた自動車関連、新規取引のお客様が增加している半導体関連以外にも、食品・飲料関連の拡販を図り、前年比102.5%の162億円を見込む。
	中国	引き続き自動車関連を中心とした売上確保を狙う。高付加価値製品を拡販し、前年比102.4%の178億円を見込む。
	その他	2017年4月に営業を開始した米国販売拠点や東南アジア・インドでの事業拡大及び欧州での販路拡大を行い、前年比116.5%の38億円を見込む。
利益		ベトナム工場の生産体制強化に伴うグループ生産体制の最適化を行い、日中で高付加価値製品の拡販や米国等の、その他の地域での事業拡大等による増加を計画。営業利益は22億円、当期純利益は14億円を見込む。

□2018年3月期の業績予想の概況です。

□中期経営計画の2年目であり、3年目以降、本格的な高収益事業推進を加速するためのバトンゾーン最終年です。

重点経営施策の一部である、ベトナム工場の本稼働、米国販売拠点の設立と営業開始等、計画通りに進捗中です。

□日本については、前連結会計年度の第4四半期より、活発な動きを見せ始めた自動車関連、新規取引のお客様が增加している半導体関連以外にも、食品・飲料関連の拡販を図り、前年比102.5%の162億円を見込んでいます。

□中国は、引き続き自動車関連を中心とした売上の確保を狙い、高付加価値製品の拡販を行い、前年比102.4%の178億円を見込んでいます。

□その他の地域は、2017年4月に営業を開始した米国販売拠点や東南アジア・インドでの事業拡大及び欧州での販路拡大を行い、前年比116.5%の38億円を見込んでいます。

□利益は、ベトナム工場の生産体制強化に伴うグループ生産体制の最適化を行い、日中で高付加価値製品の拡販や米国等の地域での事業拡大等による増加を計画しています。

営業利益は22億円、親会社株主に帰属する当期純利益は14億円を見込んでいます。

## 2018年3月期 業績及び配当の予想

(単位:百万円)

	2017年3月期 (実績)		2018年3月期 (予想)		前年差	前年比
売上高		36,648		38,000	1,352	103.7%
営業利益	5.4%	1,990	5.8%	2,200	210	110.5%
経常利益	5.1%	1,874	5.5%	2,100	226	112.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3.8%	1,375	3.7%	1,400	25	101.8%
自己資本利益率 (ROE)		9.8%		9.3%	▲0.5pt	

2018年3月期  
配当予想

中間 13.5円 + 期末 13.5円 = 27円

□2018年3月期の業績及び配当の予想です。

□売上380億円、営業利益は22億円、そして経常利益21億円、親会社株主に帰属する当期純利益14億円を見込んでいますが、バリュークリエーション2020の2年目目標値に、売上と親会社株主に帰属する当期純利益が乖離しています。

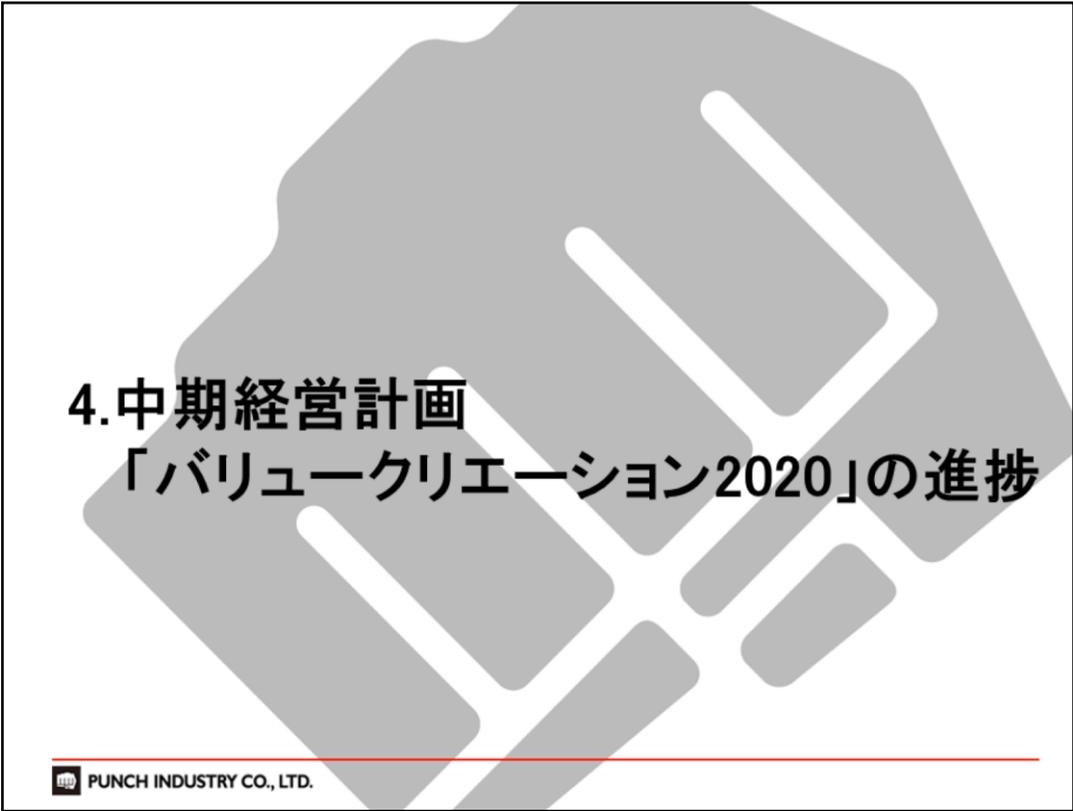
売上は為替の影響です。一方、親会社株主に帰属する当期純利益は2017年5月15日に開示した大連工場の増設工事が影響しています。

2018年3月の完成を予定しており、既存の建物等に係る固定資産除却損、約60百万円の発生を見込み、2018年3月期の業績予想に織り込みました。

□今回の大連工場増設では、戦略製品のライン新設、研究開発スペースの拡張、そして将来のさらなる設備増強に向けたスペースの確保を行い、世界最大の金型市場である中国におけるトップポジションの維持及び更なる成長の為、特注品生産の強化と生産能力の拡大という質・量の両面から対応します。

□2018年3月期の配当については、中間・期末ともに13.5円、年間では27円を予定しており、2017年3月期よりも1円増配の計画です。

□当社グループは、高収益体質を構築することにより、増益・増配基調を堅持しつつ、盤石な財務基盤と高ROEの両立を目指します。



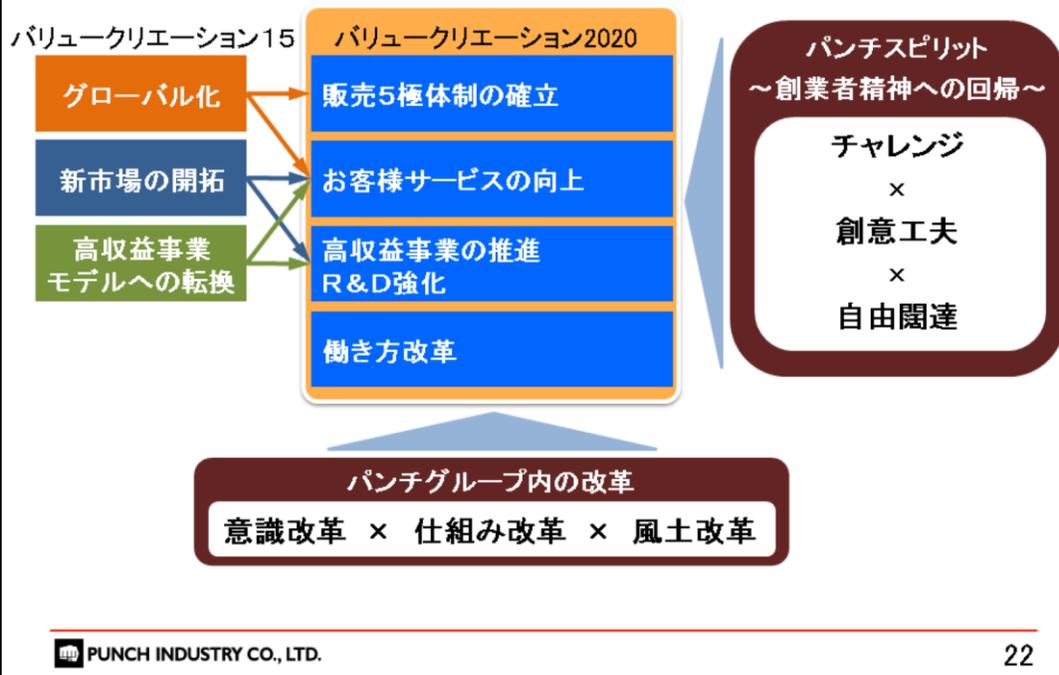
## 4.中期経営計画 「バリュークリエーション2020」の進捗

---

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

□中期経営計画「バリュークリエーション2020」の進捗です。

## 連動する「バリュークリエーション」の重点経営課題



□バリュークリエーション2020の重点経営課題です。

□バリュークリエーション2020では、

- ・販売5極体制確立（5極＝日本、中国、東南アジア・インド、欧州、米州）
- ・お客様サービスの向上
- ・高収益事業の推進とそのためのR&D強化
- ・働き方改革

の4つを大きな柱として、「パンチスピリット」をもって取組んでまいります。

□また、「パンチスピリット」を念頭において、パンチグループ内では、

- ・意識改革（「ものづくり」を根本的に見直す）
- ・仕組み改革（生産性を上げ、労働時間の短縮やさまざまな働き方を実現する）
- ・風土改革（各職場が主体となって企業風土を変革する）

の3つの改革を進めてまいります。

□以上が、VC2020の骨子です。

## 2017年4月より米国販売拠点の営業を開始

販売5極体制の確立

### グループ会社の概要

会社名

PUNCH INDUSTRY USA INC.

設立予定地

米国 イリノイ州

事業内容

金型用部品の販売

資本金

300千米ドル(約30百万円)



 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

23

□「販売5極体制」の進捗状況です。

□現状、パンチグループの拠点はアジアに集中していますが、「販売5極体制の確立」への布石として、グローバル販売体制の拡充を企図し、米国に販売会社を設立、2017年4月より営業を開始しました。設立地はイリノイ州です。

□金型大国であり、成熟化が進んだ市場ですが、特注品市場を主体とした営業活動を行い、自動車関連、電子部品関連等に加え、医療関連、飲料関連等、高付加価値分野のプレス金型用部品及びプラスチック金型用部品の販売に注力します。

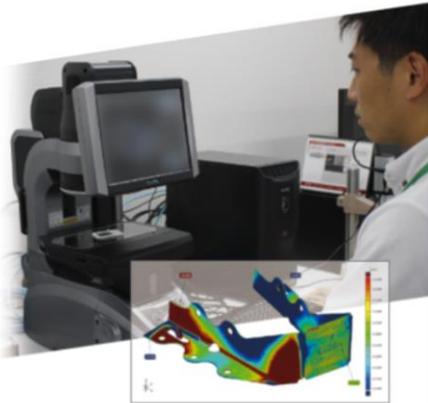
□今回の取組みは、アジア集中から真のグローバル化に向け、一步を踏み出す、ということですので、日本及び中国、東南アジアのグループ会社も併せ、総力を挙げて取組みます。

コスト削減

品質向上

作業効率UP

リバースエンジニアリング  
図面がなくても現物から3Dデータ化



異業種十多業種のお客様からの引き合い

□「お客様サービスの向上」の進捗です。

□リバースエンジニアリングとは、チャートにもありますように「図面がなくても現物から3Dデータ化して復元する技術」であり、この技術を応用してお客様の課題解決を提案しています。

□企業再編等による図面の消失や、現場での手仕上げによる微調整等によって生じた“図面と現物のズレ”という課題をもつお客様から、以前より現物を元にして金型用部品を再現して欲しいというご要望が多かったため、バリュークリエーション2020の中で取り組んでいます。

□製造業以外のお客様からご相談を頂くこともあり、今後の思わぬ新市場開拓にも繋がる大きな可能性も有しており、世界展開も視野に入れながら、じっくりと取り組んでいきたいと考えています。



- コンセプト  
「お客様に見せられる  
ハイテク工場」
- ・iPadでの図面管理
- ・IoTの活用
- カタログ品の原価率  
改善(日本)
- 特注品の生産強化、  
収益力強化(中国)

□「高収益事業の推進とR&D強化」の進捗です。

□2016年10月にベトナム工場が稼働を開始しました。

ベトナム工場は、パンチグループの次世代型工場として、「お客様へ見せられるハイテク工場」をコンセプトにIoTの活用やiPadを導入するなど、様々な取組みをしています。

□「高収益事業の推進とR&D強化」は、このベトナム工場を起点としたグループ生産体制の最適化や特注品生産ドライブを行うことで、収益力を強化することが前提の取組みですので、R&Dとマーケティングで、確実に芽を育てていきます。

□バリュークリエーション2020の経営目標達成の肝となる部分でもあり、ベトナム工場へ設備投資を実施して、当社グループの生産最適化へ取り組んでいます。



着工式



完成予想図

### 【工場増設の狙い】

- 戦略製品のライン新設
- 研究開発スペースの拡張
- 将来のさらなる設備増強に向けたスペースの確保

⇒ **質・量**の  
両面から攻める

□その他の「高収益事業の推進とR&D強化」の進捗です。

□ベトナム工場の稼働開始に伴い、パンチグループ内の生産移管を含めた生産の最適化への取組みの一環として、大連工場の増設を行います。

□大連工場増設では、戦略製品のライン新設、研究開発スペースの拡張、そして将来のさらなる設備増強に向けたスペースの確保を行い、世界最大の金型市場である中国におけるトップポジションの維持及び更なる成長の為、特注品生産の強化と生産能力の拡大という質・量の両面から対応します。

□ベトナム工場の稼働、大連工場の増設により、グループ生産体制の最適化、特注品受注強化による「高収益事業の推進とR&D強化」を推進していくことで、グループ連結業績への貢献も高めていきます。



心を変えろ!!

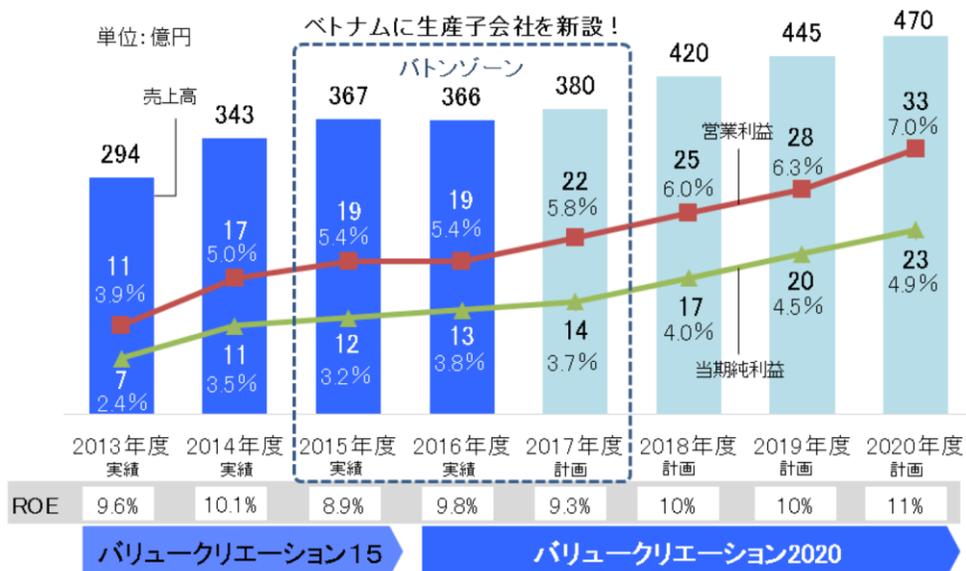


パンチスピリット

- ここまでご説明させていただいた重点経営課題実現のためには、働き方改革による組織の活性化が不可欠だと考えています。
- パンチグループ約4,000人それぞれの考え方を換え、行動を変えていくという取組みを同時並行で進めています。
- 2016年10月には社内で「働き方改革委員会」が発足し、総勢44名のメンバーは、自分のチャレンジで、仕事を変え、会社を変えて行こう、という意気込みで、取組んでいます。

## 経営目標 売上・利益の推移

2020年度 売上高470億円以上 営業利益33億円以上 当期純利益23億円以上



PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

All Rights Reserved. Copyright © 2011-2013 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

28

□経営目標 売上・利益の推移です。

□2017年3月期は、為替の影響もあり、売上が減少したものの、海外事業が好調に推移したこともあり、営業利益・純利益ともに上場来最高益を更新できました。

□バリュークリエーション2020の経営目標における基本的な考え方は、

- 稼働を開始したベトナム工場を、確実に運営する
- 欧米での販売体制を確立し、販売5極体制の推進を行う  
ということです。

□バリュークリエーション2020の2年目となる、今期2018年3月期の業績予想は、18～20ページをご参照ください。

## 1株当たり配当金と配当性向

### 【配当方針】

安定かつ継続的な配当に加え、業績連動により連結配当性向20%以上を目安としており、2021年3月期を目途として、段階的に30%へ引き上げることが目標



継続的企業価値向上の基盤は、株主の皆さまからの「信頼」と「応援」であり、「期待」にお応えすることが経営の重要課題。

2018年3月期の配当  
中間・期末ともに13円50銭  
＝ 27円予定(昨年より1円増配)

□ 1株当たり配当金と配当性向についてです。

□ 様々な取組みにより、2020年度の配当性向の目標を、現状の20%から30%へと段階的に引き上げる考えです。

□ パンチグループは、上場を期に、「世界のパンチ」を目指して新たなスタートを切った会社であり、まだまだ成長に向け、R&D投資、IT投資等も含めた戦略投資も必要であります。

□ 一方で、内部留保と還元のバランスもとりながら、バリュークリエーション2020で掲げた四つの重点経営課題に取組み、持続的に成長していくなかで、株主様への還元にも取り組んでまいります。

■ 各資料につきましては、弊社Webサイトよりご覧ください。

◆ 決算短信

<http://www.punch.co.jp/ir/library/tanshin.html>

◆ 決算説明資料

<http://www.punch.co.jp/ir/library/setsume.html>

◆ IRニュース一覧

<http://www.punch.co.jp/ir/2017/>

# 参考資料

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

## 会社概要

会社名	パンチ工業株式会社
本社所在地	東京都品川区南大井6丁目22番7号
設立	1975年3月
資本金	28億9,773万円
従業員数	3,959名(グループ連結、2017年3月末現在)
生産拠点	北上工場(岩手県北上市) 宮古工場(岩手県宮古市) 兵庫工場(兵庫県加西市)
グループ会社	株式会社ピンテック(山形市) 盤起工業(大連)有限公司(中国) 盤起工業(瓦房店)有限公司(中国) 盤起工業(無錫)有限公司(中国) 盤起工業(東莞)有限公司(中国) 盤起弹簧(大連)有限公司(中国) PUNCH INDUSTRY INDIA PVT. LTD.(インド) PUNCH INDUSTRY MALAYSIA SDN. BHD.(マレーシア・ペナン) PUNCH INDUSTRY SINGAPORE PTE. LTD.(シンガポール) PUNCH INDUSTRY VIETNAM CO. LTD.(ベトナム) PUNCH INDUSTRY MANUFACTURING VIETNAM CO. LTD.(ベトナム) PT. PUNCH INDUSTRY INDONESIA(インドネシア) PUNCH INDUSTRY USA INC.(米国)

※PANTHER PRECISION TOOLS (KL) SDN. BHD. は、PUNCH INDUSTRY MALAYSIA SDN. BHD. に事業を移管し、2016年9月27日付けで清算を結了しております。

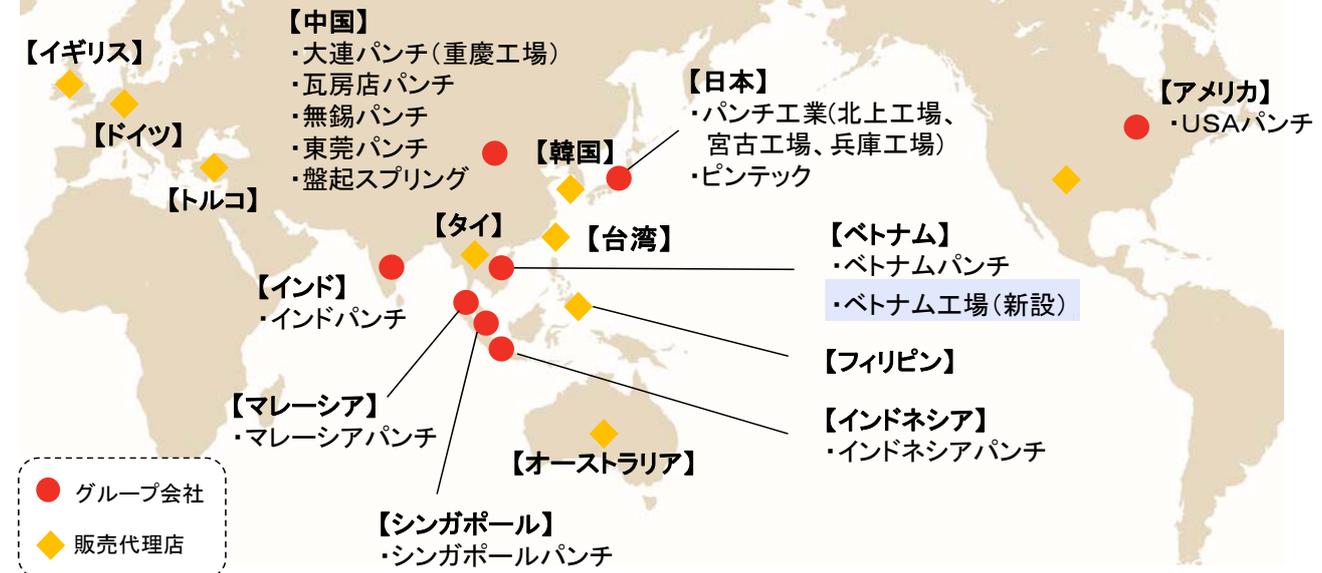
# パンチグループのネットワーク

## 生産拠点数

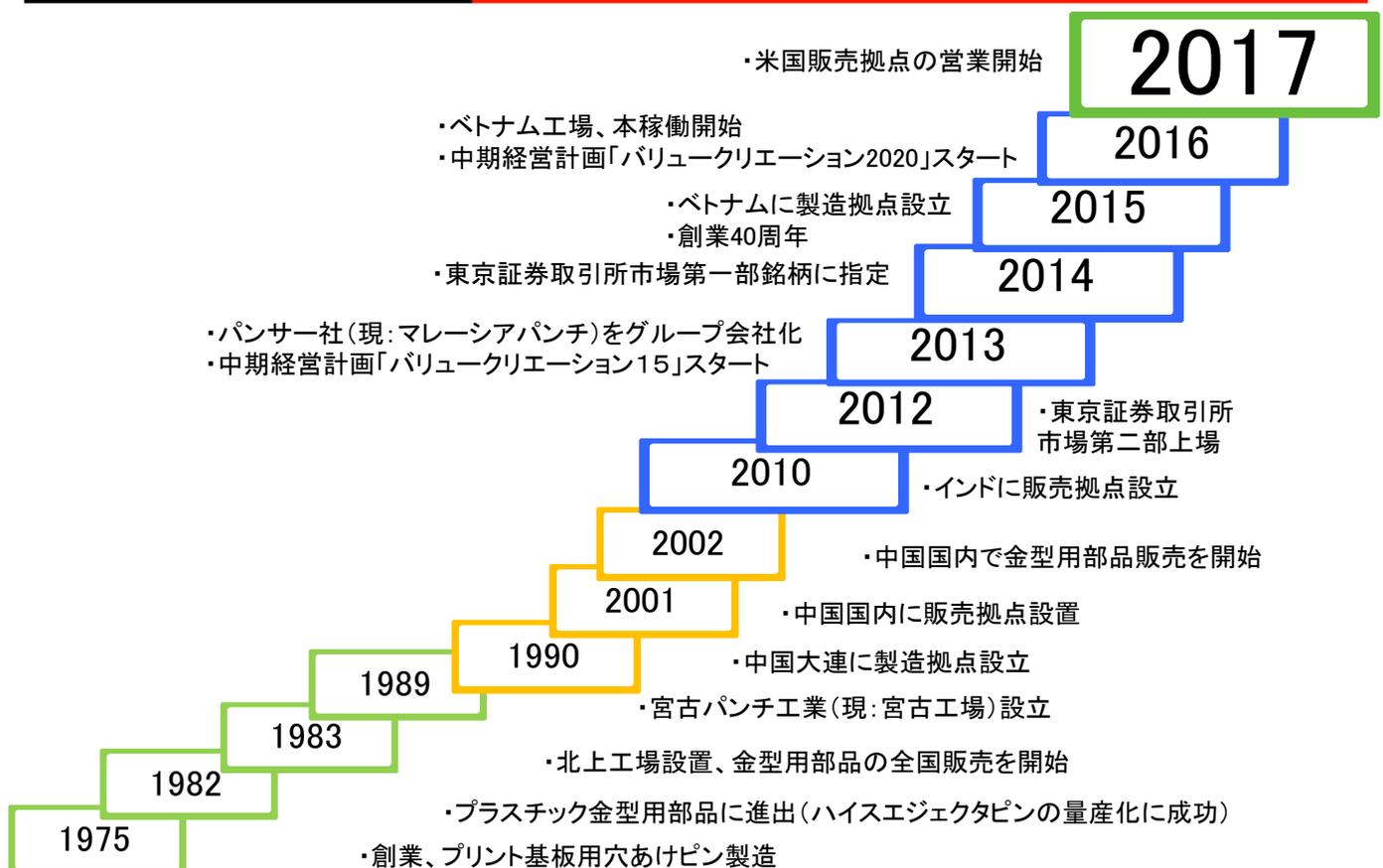
日本	海外
4 カ所	8 カ所

## 販売拠点数

日本	海外
13 カ所	40 カ所

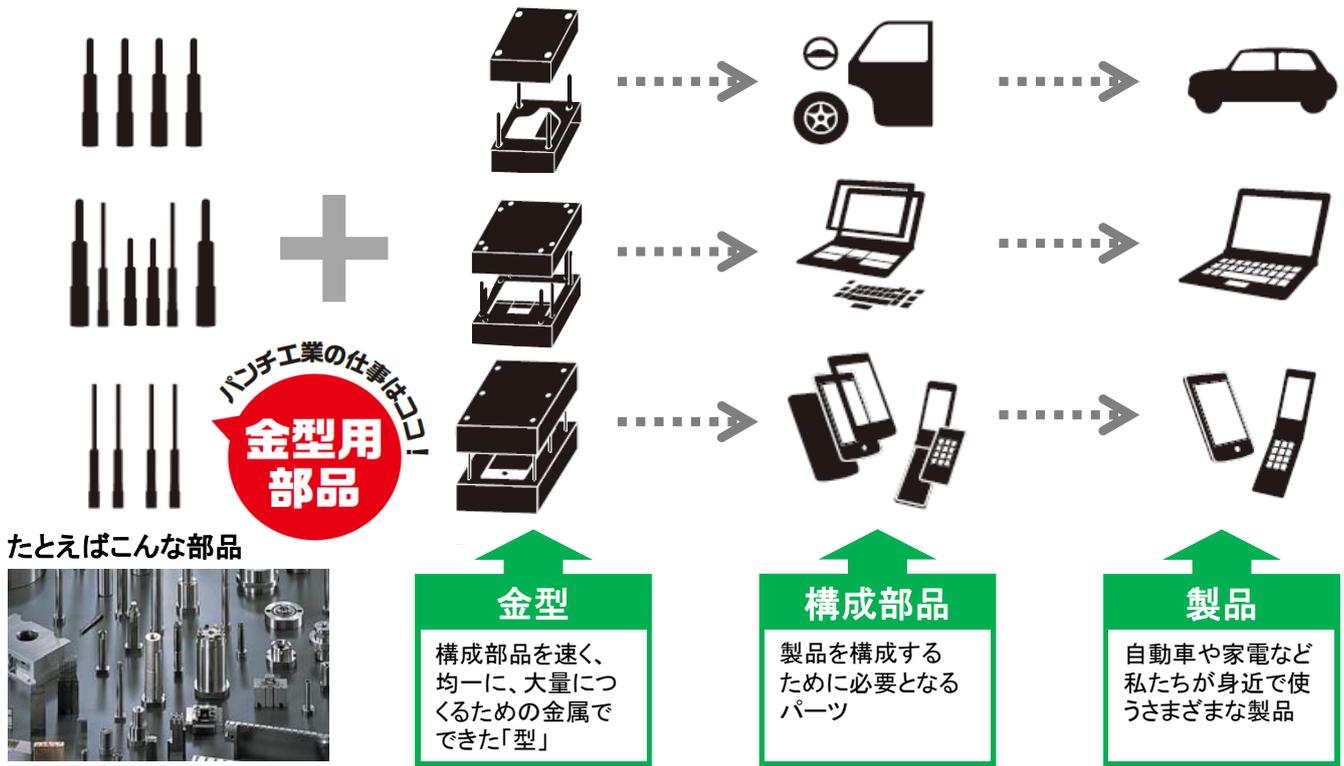


# 沿革

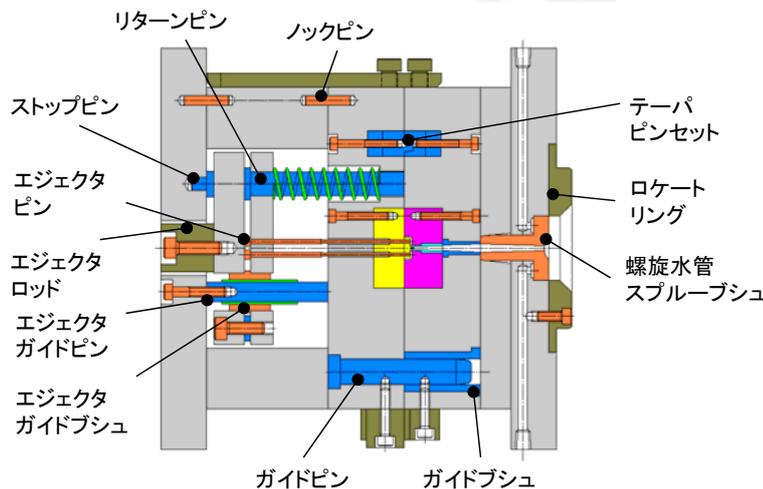


# 事業内容

金型を構成するために、なくてはならない多種多様な精密部品の製造・販売



# プラスチック金型と金型用部品



## ●プラスチック金型用部品について

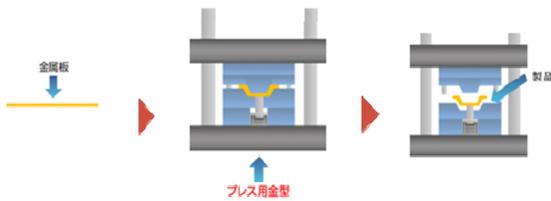
プラスチック金型とは、携帯電話やデジタルカメラの外装など、多くのプラスチック製品の製造に用いられる金型であり、加熱溶融したプラスチック樹脂を、射出成型機に実装された金型に注入し、冷却、固化することにより製品が作られています。

当社グループでは、広範なプラスチック製品の射出成型用金型に組み込まれるエJECTAピン、スプルーブシュ等のプラスチック金型用部品の製造・販売を行っております。

**エJECTAピン**・・・ 成型品を金型から離し、突き出すための部品

**スプルーブシュ**・・・ 射出成型機の射出ノズルから溶融したプラスチックを金型へ流し込むための部品

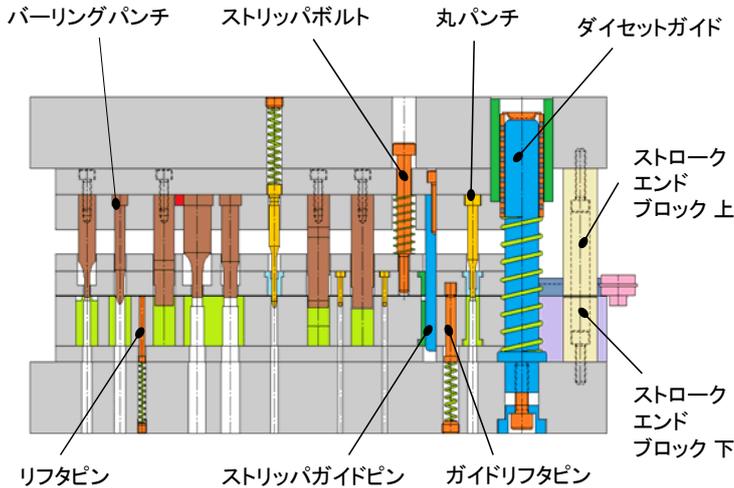
# プレス金型と金型用部品



プレス金型

パンチ

ダイセットガイド



## ●プレス金型用部品について

プレス金型は、プレス機(上下運動する機械)に金型を装着し、上下に分かれた金型の間に材料(金属の鋼板)を入れ、プレス機を稼働することにより、金型で型どられた製品が出来上がります。

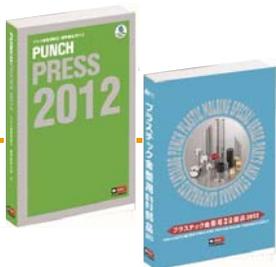
当社グループでは、自動車、家電、精密機器などを大量生産するために必要な、プレス加工で使用される金属の鋼板を打ち抜く際に使用するパンチ・ダイ部品、金型の上下の動きを保持するガイド部品等のプレス金型用部品の製造・販売を行っております。

**パンチ**..... パンチは材料に推しつけて使われる工具で、通常はダイと対で使用され、材料に穴をあけたり、形状を転写する部品

**ダイセットガイド**... 上型と下型の関係を正しく保つために使用する部品

# パンチグループの強み

## お客様に高い満足度を提供



**カタログ品**

汎用性の高い標準製品を豊富にラインナップ

スピーディなソリューション

**特注品**

カスタムニーズにも柔軟に対応



**一気通貫の生産体制**

1,700台の設備で幅広い対応力

**お客様密着型の営業体制**

きめ細かな対応・提案力

**高い技術力**

創業以来培ったノウハウとたゆまぬ研究開発

# CSR経営と企業ビジョン

## CSR経営

世界のものづくりを支える企業であり続けるために  
CSR経営を実行しています。

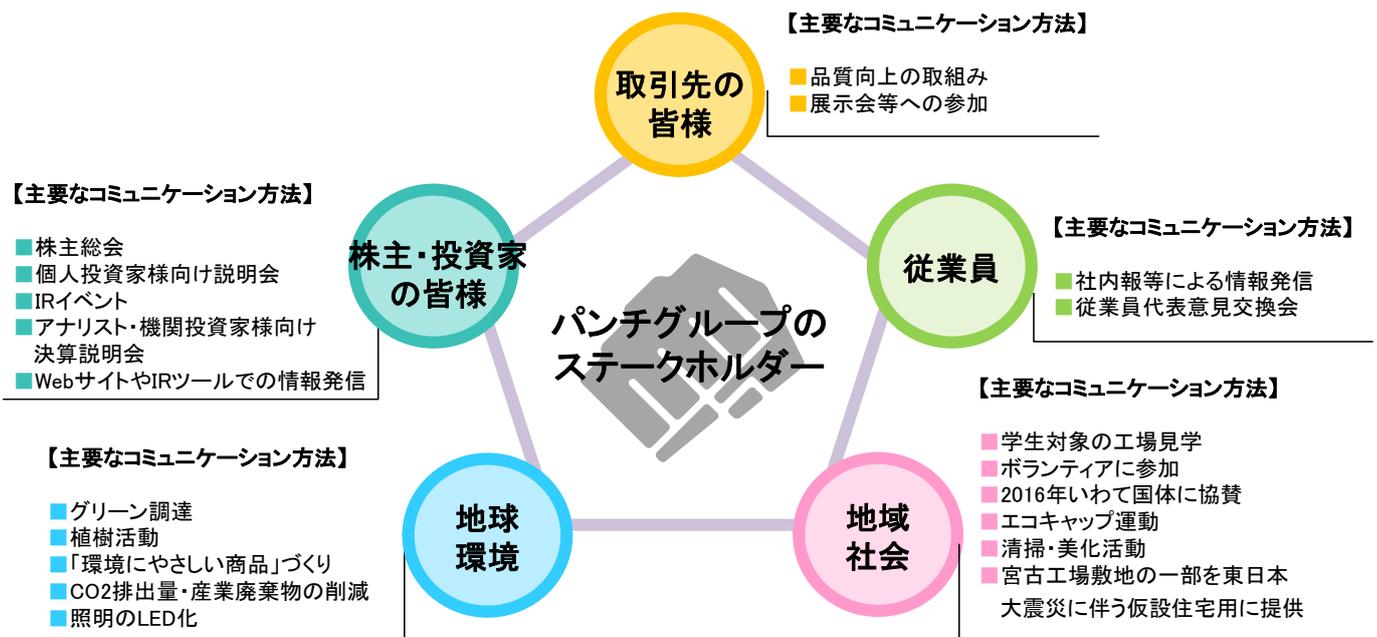
## 企業ビジョン



## 世界のパンチへ

金型部品業界での  
トップブランドを確立し  
製販一体企業としての  
優位性を活かした  
高収益企業を目指す

# ステークホルダーとのコミュニケーション



個人投資家様向け会社説明会の様子



植樹活動の様子



エコキャップ運動



【いわて北上マラソン】  
マラソンボランティアの様子

本日は、誠にありがとうございました。



【IRに関するお問い合わせ先】 パンチ工業株式会社 経営戦略室 広報課 電話:03-5753-3130 e-mail:info-corp@punch.co.jp

**【将来見通し等に関する注意事項】**

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。  
本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。  
また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。  
本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。